

国際ビジネスコミュニケーション学会

Japan Business Communication Association, September 2012

関西支部 2012年度 第3回 支部例会 プログラム

【日時】

2012年9月23日(日曜日) 13:00 ~ 16:30

【会場】

同志社大学 今出川キャンパス 扶桑館5階 510号教室

Conference Program

- 13:00 ~ 13:10 関西支部 支部長 挨拶
Alex M. Hayashi (常磐会学園大学)
- 13:10 ~ 14:10 オープニング講演
Culture Shocks in England (仮題)
- Simon Humphries 氏 (同志社大学 文学部 助教)
- 14:25 ~ 15:05 研究発表 (1)
企業のソーシャルメディア炎上問題の分類に関する考察
- 白水盛博 院生会員 (同志社大学 大学院)
- 15:20 ~ 16:00 研究発表 (2)
国際ビジネスにおけるコミュニケーション・ツールの変化と国際電子
商取引の進展
— サレンダーB/Lと運送書類電子化の関係について —
- 長沼健 会員 (同志社大学)
- 16:10 ~ 16:30 関西支部からのお知らせ
- 16:50 ~ 19:00 懇親会
※会費は4,000円程度を予定しております。
※関西支部会への参加申込時に、併せてお申し込みください。

Opening Lecture 13:10 ~ 14:10

■ 講演者プロフィール

Simon Humphries 氏 (同志社大学 文学部 助教)

Dr Humphries received his Ph.D. in linguistics from Macquarie University in April 2012. His recent and forthcoming publications discuss some of the cultural challenges faced by the introduction of communicative language teaching (CLT) in Japan. In his previous workplace, he initiated and managed an international exchange programme with a college in England. At Doshisha University, he teaches a course to prepare students for overseas study.

■ 演題

Culture Shocks in England (仮題)

■ 要旨

Culture shock can be defined as “the feeling of disorientation experienced by someone who is suddenly subjected to an unfamiliar culture, way of life, or set of attitudes” (New Oxford American Dictionary). When exchanges take place between individuals from different countries, such gaps in culture can be interesting, disturbing and/or entertaining. For Japanese forging international relations with people from England, misconceptions may arise because the target culture can differ greatly from the images generated through the domestic national media. This presentation aims to portray some alternative images of English culture from two perspectives. Firstly, the presenter will describe some of the cultural changes that have taken place in contemporary England. Secondly, he will draw upon the experiences of his Japanese colleagues and students to illustrate some unexpected cultural shocks.

(講演 45 分間、質疑応答 15 分間)

Presentations 14:25 ~ 16:00

■ 研究発表 (1) 14:25 – 15:05 (発表 30 分間、質疑応答 10 分間)

企業のソーシャルメディア炎上問題の分類に関する考察

白水盛博 院生会員 (同志社大学 大学院)

発表要旨

本発表では企業のソーシャルメディア上の炎上問題の分類を行う。企業によってマーケティング活動や広報活動など様々な場面でソーシャルメディアが活用される程度や頻度が増してきている。その結果、企業の直面する炎上問題への事前準備や対応方法の重要性も高まってきている。その炎上問題に関するリスクマネジメントを行う際に、炎上の原因とその方法が違えば企業の対応のシステムも異なってくるため、企

業におけるソーシャルメディアの炎上問題を科学的に分類する事は重要となってきた。

発表の前半部分では炎上の発生源と発生の原因を考察する。後半部分では炎上の広がり方、企業の対応方法と二次的損害などを中心にその各々を比較分析する。その分析結果から、炎上問題は常にその発生源にその原因が内在しているという解を得ることができた。それゆえに、企業の炎上問題の焦点をその発生源にしぼったうえで、さらにその分類を行うことにする。

発表前半部分の発生源に関しては、経営者、ソーシャルメディア担当者、従業員、一般ユーザーといった炎上の発生したアカウントの利用者を中心に比較、考察をする。また、炎上の原因については、経営学的にみて企業のマネジメントにおけるどの様な点が原因となり得るのかについて、考察する。

後半部分では特に、問題に対する企業の対応方法と二次的損害の有無により、炎上の広がり方や炎上の沈静化の方法や炎上が消滅するまでに要する時間が異なる点に着目し、その点を中心に考察をすすめる。その後、前半部分で考察した発生源や発生の原因を総合したうえで、企業の炎上問題を解明していくことにする。

■ 研究発表 (2) 15:20 – 16:00 (発表 30 分間、質疑応答 10 分間)

国際ビジネスにおけるコミュニケーション・ツールの変化と国際電子商取引の進展

— サレンダーB/Lと運送書類電子化の関係について —

長沼健 会員 (同志社大学)

発表要旨

本研究の目的は、国際ビジネスのコミュニケーション・ツールである運送書類の変化が運送書類の電子化に影響を与えているという仮説を提示することである。

2007 年、マースク株式会社は今後発行する SWB(海上運送状)を電子化していくことを表明した。同時期には邦船三社も e-SWB(電子海上運送状)に対するサービスの充実と拡大を発表した。プラットフォーム・ビジネスが提供する電子船荷証券が伸び悩んでいる中で、船会社が提供する e-SWB の普及によって運送書類の電子化が進んでいくことが予想された。

ところが、最近の研究ではこの e-SWB の使用率は期待したほど増加していないことが明らかになっている(長沼, 2011)。ここでは 141 社(東証 1 部・2 部)を対象にアンケート調査を実施し、企業の運送書類の使用実態を調査した。その結果として、企業が使用している e-SWB の使用率は 6.41%であることが報告されている。それでは企業における運送書類の電子化は進展していないのであろうか。

この点に関して、本研究では運送書類の電子化は意外な形で進んでいると主張する。すなわち、サレンダーB/L(元地回収船荷証券)の使用方法が変化したために運送書類の電子化が促進されていると考える。研究の手順としては以下の通りである。まず、企業の運送書類使用の実態を報告する。次に、企業がどのようにサレンダーB/Lを使用しているかといった事例を紹介した上で、サレンダーB/Lの使用が運送書類の電子化に影響を与えているという仮説の提示を試みる。最後に、以上の議論を踏まえた上で、今後の運送書類使用の展望について述べる。



Kansai Chapter

2012 年度 第 3 回 関西支部例会（研究発表会）プログラム

国際ビジネスコミュニケーション学会 (JBCA) 関西支部
〒547-0021 大阪市平野区喜連東 1-4-12 常磐会学園大学 Alex M. Hayashi 研究室内
TEL: 06-4302-8880 FAX: 06-4302-8884
Website: <http://www.jbca.gr.jp/kansai> Email: alex23go3500@yahoo.co.jp
